

会議の名称	令和4年度浅口市行財政改革推進懇談会（第3回）		
開催日時	令和5年2月27日（月）10時30分から11時25分		
開催場所	浅口市健康福祉センター 3階シリウス		
出席者及び欠席者	<p>【委員出席者】 中村良平会長・伊澤誠副会長・杉野美代子・山内悦子・奥慎二・筒井由紀子・松本良枝・大岸貴美子・石井節子・金光道晴・額田教正</p> <p>【委員欠席者】 澁谷 達磨</p> <p>【事務局】 石田康雄企画財政部長・園部智秘書政策課長・秘書政策課3人</p>		
傍聴の可否	傍聴可能	傍聴者数	0
会議次第	1 開会 2 市長あいさつ 3 会長あいさつ 4 議事 （1）第4次浅口市行政改革プラン【修正案】について （2）その他 5 閉会		
問い合わせ先	企画財政部秘書政策課 電話番号 0865-44-9013 〒719-0295 岡山県浅口市鴨方町六条院中3050 e-mail:hisyoseisaku@city.asakuchi.okayama.jp		

発言者	内容
	【開会】10:30
事務局	浅口市長 栗山康彦が挨拶をさせていただきます。
栗山市長	参集の礼。 本日は行政改革プランの修正案について審議いただくが、このプランをもとに5年間行政改革を進めていくこととなる。 皆さんの忌憚のないご意見をお願いしたい。
事務局	(市長、他公務の為、退席) 次に、中村会長からあいさつをお願いします。
中村会長	市長からも話があったように、今日は3回目最終回。前回委員からいただいた意見を踏まえた修正案として審議をお願いすることとなる。委員が発言された内容がプランに反映されているか確認いただき、その後追加できるなら答申にも反映させていきたいので協力をお願いします。
事務局	これからの進行は、中村会長をお願いします。
中村会長	議事に入る。本日の議事は第4次浅口市行政改革プランの修正案について。
事務局	事務局から説明し、皆様のご意見を伺いたい。 (1)第4次浅口市行政改革大綱【修正案】について説明
中村会長	委員から質問、意見を求める。
金光委員	行財政改革というイメージがあったが、これらの資料で行政改革となっている。意図・意味について改めて確認したい。
事務局	あえて行政改革と表記している。行財政の場合、財政的な部分に多くのフォーカスが当てられるが、この取組みでは財政的な部分だけでなく、行政サービスを広く、もう少し大きな意味をもたせ、市役所が行っているサービス全体がイメージできるような意味をもたせるため行政改革といった表現をしている。

筒井委員	<p>No.40 市長の出張座談会の拡充について。</p> <p>市長が公民館などに行き、お話をされたり聞いたりというのは承知してるが、座談会での内容やその後どうなったかといったところまで反映していただくいいのかと思う。広報の仕方や、市民の方に分かるように示していただきたい。</p>
事務局	<p>市長の出張座談会ですが、委員のご意見あったのは、市長が市民の意見を聞く場を設けております。このプランで決めておるのは、あるテーマに沿って各種団体と意見交換を行う出張座談会について。これ以外に、市長が各地域に出向いき、各地域の課題や市の動向や取組み説明などの意見交換を行う場がある。町内会の総会や役員会など、そういったところに出向いていくことについては、個別の案件であり回答は各地区の会長さん等に検討結果をお知らせしている。出張座談会については、開催後、市のホームページにその内容を掲載するなど広報を行っており、今後も周知を行ってまいりたい。</p>
山内委員	<p>未利用財産、空き家というか、そのようになってる施設は現在何件あるのか。</p>
事務局	<p>いわゆる普通財産の総数になる。未利用財産の中にも建物の他、市が所有している土地で活用してないものもあり、総数については申し訳ないが今は資料もなくお答えできない。例えば、代表的なところで、いわゆる建物の未利用財産という意味では、寄島の旧公民館や金光の廃止されている幼稚園となるが、処分を行おうにも買手がつかない状況。建物をどうしていくか、使えないわけではないが、耐震化しない施設については行政としても使用し難いので、どのように処分していくかということは担当の財政課を中心に検討していかなければならない。色々な方法を模索しているところではあるが、この売却件数、年1件を目標ということ目指していく。事務局としても、いわゆるニーズがないところを売却していこうということであり、簡単にいかないものとも考えている。積極的に使わない財産については売却をし、有効活用していきたいということを目指した。</p>
山内委員	<p>未利用財産を処分することにより、収入が増えるという気持ちはするが、どこが未利用の土地で、市民がああ空き地を借りたい、買いたいと考えられるよう、広報の仕方についても頑張っていたきたい。</p>
事務局	<p>先ほど担当が総数は把握していないと回答したが、私も正確な数</p>

	<p>字は把握していないが、大小合わせて数千件は存在している。</p> <p>市民の方が利用したい時にはとの話もあったが、そういった時には普通財産の担当が財政課にご相談をお願いしたい。普通財産、行政財産の区別がわからないと思うので、財政課へ問い合わせをいただければ、その場所がどういった土地かということはお調べして、利用できるかどうかお伝えができる。</p> <p>また、公共施設の有効活用ということで、庁舎等の空きスペースの活用についても、現在市としては考えている。コロナ禍でデジタル庁をはじめデジタル行政を推進していかなければならない中で、金光・寄島の両支所については、空きスペースも出てきている。そういった場所には、例えば、市役所の業務の中でも産業建設部や上下水道部など専門性がある部署に活用することであったり、シルバー人材センターなど市内の公共性がある団体・事業者、こういったところにも利用できるよう今後検討してまいりたい。</p>
筒井委員	<p>No.6 について。前回に聞いておけばよかったが、この内容は商工業を推進しようという項目だと思っている。それに対して、成果指標を見ると、商工会の会員数が減ってるが、これから増やしようという項目なのに、減った数値で良いのかなと思う。指標は違うデータの方が良いのではないか。</p>
事務局	<p>成果指標については、委員の指摘のとおり、他の項目ではどちらかということ、増やしていこうといったものだが、この項目については、減り幅を抑えるという目標での設定をしている。浅口商工会の会員数自体が年々減っているのは事実であり、このまま行くと、市内の商工業について打撃が大きくなるまえに、どうやって止めていくかと考えるなかで、企業・創業・継業を促進していきましょうという目標を設定している。こちらについては減り幅を抑えるということで、こういった数値を設定したい。</p>
中村会長	<p>4年から9年の5年間で24事業者が減る想定。これで抑えがなければ、もっと減るのではないかという気もするがどうか。商工会の会員にならない事業者の方もおられるので一概には言えないが、この目標値は、他の目標値に比べて少し疑問を思うので、なにか追加で記載をした方がいい。過去何年間で何パーセント、何件程度減ってきて、今後このペースでいくとかなり減少するため、それを抑えるような目標値に設定すると、付帯条件をどこかに追記して誤解を招かないようにしてはどうかと思うが、委員の皆さんいかがか。</p>

大岸委員	<p>浅口市内の特産物が、衰退していったと感じる。私の住んでる地区で天文イチゴを作られてた方も先日亡くなられて、最近天文イチゴの名前を聞かなくなったなど思ったり、桃作りをされてる方も高齢化されてというのを聞くと、あの浅口市で、牡蠣や桃など特産物といったものが衰退しないために、どのような対策をしていくのが、この取組みにも見えてきたらいいかなと思う。今、どの程度補助してるとかいうのがあるのかはわからないが、胸を張って特産品を市外へ宣伝できるような取り組みが、ここに見えてきたらいいかなと思うが、どうか。1番下のところ、上記以外の効果として、手延べ麺や漁業など伝統産業が受け継がれ、浅口市の特性・特色が維持されるとあります。この辺りに少し文言を入れることができないか。</p>
事務局	<p>浅口市の特産品を守っていくということも重要であると認識しております。</p> <p>浅口市の事業支援として、都市部に行ってPRをする出展事業や創業することに対して補助金を出すことで、事業者支援を促進している。</p> <p>桃などの農産品やガザミや牡蠣などの水産品についても伝統産業として発展に繋げていかなければいけないという中で、目標値自体はないが補助制度についてもしっかりと検討していく必要があると考えている。先ほど会長からの指摘の通り、現状値から予測する数値ですね。現状このままで行くと、どの程度減っていくのか比較ができるような標記や評価ができるよう変更していきたい。</p> <p>また、伝統産業を守っていくことにつきましても、商工業者、中小企業としては漁業者や農業者、農産品などの加工販売なども含まれるので、そうしたところを支援していくことで伝統産業を守っていくことに繋げていきたい。</p>
額田委員	<p>No.10 鴨方地域の小学校の給食調理所の解体整備及び 跡地利用について。最初に市の未利用財産の売却とか有効利用があり別出しになっているが、何か理由はあるのか。</p>
事務局	<p>学校部分については行政財産という部類になるものと認識している。No.1や No.13については普通財産であり財産の種別を分ける形での目標設定としている。</p>
山内委員	<p>No.6 について。杉野委員とも話をしたが、人口減少もありますし、浅口で起業されても商工会に加入されない方もいるとお聞きし</p>

	<p>た。それに追隨して No.4 ふるさとのふるさと納税ですが、寄付金の返礼品に関して、例えば先ほど大岸委員が言われたような、天文イチゴを利用するとか、もっとアピールする部分がふるさと納税とも連動してできないかと思う。</p> <p>手延べ素麺やうどんも返礼品となっているのは存じているが、今、ふるさと納税の返礼品が問題にはなっていますが、例えば天文台をここはPRしたいんだったら、天文台の観覧券やキャンプ場の利用券など、いつも同じものではなく、新たな財源を確保するとあるが財源の見直しに加え、返礼品の見直しも必要ではないかと考えるかどうか。</p>
事務局	<p>返礼品については、市内事業者の皆様の協力が欠かせない。農林水産について、浅口では桃や牡蠣など、季節に応じた商品が特に人気がある。製品の登録は事業所の方からご提案をいただいて、返礼品の登録に至ったケース、また、市の方から、返礼品の発掘も含め登録をお願いしているケースもあり、委員ご指摘の、今までと違う返礼品となると、市職員のアイデアであったり、事業所間の連携といった部分かと思う。担当課にはいただいたご意見を伝え、返礼品の登録を推進していきたい。</p>
山内委員	<p>なぜ、私がお話を出したかということ、小学校の子どもたちがふるさとを見直そうというような授業をしている。子供の発想は大変興味深く、天文台のことや安倍晴明、阿部山を歩いてみようとか、史跡なども子供たちはとても興味深く言うので、食べ物だけではなく、子供たちの意見を取り入れるようなアンケートを取ってみるもの1つの手かと思う。面白いと思ったので、意見させていただいた。</p>
中村会長	<p>具体的なやり方については、ぜひ考慮して実行に移せばいいかと思う。</p>
筒井委員	<p>No.37について説明があった。健康福祉センターも貸し出しの予約ができると思うが、この施設の予約については、別の課になるのではないか。</p>
事務局	<p>関係課の欄に、施設管理各課と記載しており、この中に含まれる。</p>
大岸委員	<p>No.11施設の LED 化について。良いことなので、もっと早くしたらどうかと思います。一度に更新したら、やり替えも同時期になるた</p>

事務局	<p>め、1年ごとにしているのかなとも思うが、電気代の節約にもなるならもう少し前倒ししてもよいのではないか。</p> <p>市としましても、できるだけ早く、LED化を進めていきたい。ただ、昨今の材料不足等もある。この計画の目標値については進捗状況を把握し、行財政改革推進懇談会を定期的に行い、見直しを随時行っていきたい。目標値につきましては、前倒しがあるので、都度、この懇談会で報告し、計画変更を行いたい。現状としてはこの数値で、ご理解いただきたい。</p>
金光委員	<p>第2回の懇談会には所用で欠席しており、1回しか出席できていなかった。この会はどういう形でまとまってくるのか不安を感じることもあったが、この度の資料をいただき本当に大変なご尽力をいただいていることに、改めて敬意を表したい。</p> <p>関心もしたが、これから5年間のプランということで目標値が様々な設定されているが、今後それをどう検証するかが、達成をチェックする、あるいは修正することもあると思う。より目標値を上げることや、下げるようなことも起こるのではないか。その辺の見通しを教えてください。</p>
中村会長	<p>今後の見通しについては、毎年、評価と検証を行うこととしている。したがって、その時に評価項目が増えたり、場合によっては、削減する。同時に、数値目標についても、時点時点で見直しを行う。</p>
事務局	<p>目標値や取り組む事業について、第1回目の懇談会の時と今の状況を比べても、特にデジタル関係は目まぐるしい変化が起こっていると思っている。</p> <p>市としましても、毎年1回は取り組みの内容と数値的な部分については見直し、修正・追加を行うサイクルを行いたい。</p>
奥委員	<p>前回、マイナンバーカードの促進と、公共施設の予約システムのお一利用者の設定について目標を見直していただき感謝する。</p> <p>No. 3. 広報紙・市のホームページバナー広告の募集について。有料広告を募集し、財源の確保を図るとあるが、現状値で125万と、4年が130万と、毎年5万円の増で、結果的に令和9年度は20万円の広告収入増としているが、もう少しアイデアが欲しいなという気がするが、もう出尽くされたということか。今日配られた封筒は裏面に企業の広告があり、取り組みの内容が理解できた。スポーツ協会に</p>

<p>事務局</p>	<p>も封筒はあるが裏面は活用していない。様々な封筒があると思うが、スポーツ用品店や弁当屋など。関連する業者はいると思うので、声かけしてできないかと思った。</p> <p>他にも色々考えるとこの数値は非常に少ないかと思うがどうか。</p> <p>広報紙・市ホームページのバナー広告については、現在も行っており、今現在は125万円の現状値がある。広告の枠についても広報誌やホームページは、掲載枠という制限ある。広告枠を広げてしまうと、本来伝えるべき情報が市民の方へ伝えられないということもあるため、広告を出したい方々のご意向等を踏まえながら枠の設定を考えていく必要もあるため、目標値も微増としている。</p> <p>広告入りの封筒については、この度、財政課が封筒の作成費用を広告業者に持っていただくということで行っている。広告費としての収入はないが、広告入り封筒を作ることで、封筒の作成費を削減できたという行革の一環となる。様々な媒体に広告を活用していくことにつきましては、今後も検討し、市の方でも、積極的に取り組みたい。</p>
<p>奥委員</p>	<p>ここには広報誌と市のホームページしか書いてないが、その他に広告収入を得られるものもあるかかと思うので、それも含めればと思った。広告収入も先ほど言われたが、封筒に広告入れることで業者が作ってくれるということであれば、その分も収入として置き換えてもいいのではないかと思う。</p>
<p>大岸委員</p>	<p>No. 35デジタルシチズンシップ教育の推進と、児童生徒の生活習慣の改善について。小中学校、高校までクロームブックなどタブレットパソコンが授業にも活用されているが、それが増えたために、子供たちの荷物が増え、重くなっている。宿題をするために教科書も持って帰る必要もあり、もしもの時のためにタブレットも持って帰っている。</p> <p>先日、学校運営協議会にも、クロームブックの中に教科書が入るようなことも聞いているが、このNo. 35はカリキュラム作成とメディアとの付き合い方を中心に目標ができていると思うが、子供たちの負担というか、クロームブックの中に教科書が見れるような動きと子供の負担軽減が盛り込めないか。</p>
<p>事務局</p>	<p>No. 35 はデジタルチズンシップということで、児童生徒、それから保護者の間でデジタルの端末を使った時の約束を決めて、その約束を守れた割合を増やしていくことが目標となっている。委員ご指摘</p>

	<p>の、通学時の荷物が多いことなどについては、担当課に伝え、教育系の会議で審議を進めてもらう事項になる。</p>
中村会長	<p>いただいた意見をもって最終意見とする。 (2)その他について、事務局からあるか。</p>
事務局	<p>審議中も指摘をいただいたが、プランの一部については注釈等を追記する箇所がある。</p> <p>追記する内容と、懇談会としての答申書を作成し、最終的には市長に答申を行うこととなるが、懇談会は本日が最終。会長、副会長への確認を以って確定でご了承いただけるか。特にご意見ない場合は、今日の修正・追加の記載を会長、副会長と進めてまいりたい。</p> <p>今後の流れとして、今日の懇談会をもって答申を行う。懇談会からは中村会長と伊澤副会長、市からは、栗山市長が参加し、懇談会の答申書を渡すといったところで関係者の日程を調整し、年度末までには行いたい。</p>
中村会長	<p>委員から、何かあるか。 なければ議事を終了し、進行を事務局にお返しする。</p>
事務局	<p>閉会にあたり、伊澤副会長より、ご挨拶いただく。</p>
伊澤副委員長	<p>今年度は行政改革大綱と行政改革プランの策定年度であり、3回の懇談会を開催しましたが、それぞれの立場でいただいた意見、感想は大変有益なものであった。市におかれては懇談会委員からの発言や意見を業務体制の改革や行政改革プランに活かしていただき、委員皆様においてもそれぞれの立場でご協力いただきたい。</p>